

意見書

厚木市文化芸術振興委員会

令和2年9月

厚木市文化芸術振興委員会 委員名簿

No.	役職	氏名	選出区分
1	委員長	いづか まさみち 飯塚 正道	優れた識見を有する者
2	職務代理	こもり あんな 小森 安奈	優れた識見を有する者
3	委員	こまつ のぶ こ 小松 のぶ子	優れた識見を有する者
4	委員	さかきばら ゆうき 榊原 勇城	優れた識見を有する者
5	委員	たにわき えいこ 谷脇 瑛子	公募による市民
6	委員	はやし ういこ 林 有為子	公募による市民
7	委員	もりや ともゆき 森屋 知之	優れた識見を有する者
8	委員	もりやま つよし 森山 剛	優れた識見を有する者
9	委員	わだ えつこ 和田 悦子	公募による市民

厚木市文化芸術振興委員会では、本市の文化芸術の振興に当たり、平成24年に制定された厚木市文化芸術振興条例の運用状況の点検を毎年度行ってきましたが、この度、2回目となる条例の運用状況に対する評価を市長よりいただく時期となり、当委員会の点検結果をまとめ、意見書として提出いたします。

当委員会が、平成28年度から令和元年度までの4年間に渡り点検した結果、運用状況については、順調または概ね順調と判断させていただきました。

そのような中で、日本の総人口は現在、減少過程に入り、少子高齢化社会の到来、グローバル化の急速な進展、ライフスタイルの多様化など、社会状況は大きな転換期を迎えています。

さらに、新型コロナウイルス感染症が文化芸術活動に与えた影響は甚大で、数多くの文化芸術の活動が、相次いで中止・延期となり市民の文化芸術活動が停滞したことは否めません。

文化芸術は人々の心にゆとりと潤いを与え、人々が生き生きと暮らすためにも不可欠なものです。

前述のような課題が山積する中においても、文化芸術の推進に向け、継続的に取り組んでいく必要があります。

当意見書が厚木市のこれからの文化芸術振興の一助になることを切に願いつつ、条例の第1条に規定されている「人、まち及び自然が響きあうあつぎの文化芸術を創造し、もって心豊かな市民生活と活力に満ちた地域社会の実現に寄与する」の目的に沿いながら、今後の文化芸術の更なる発展に向け、文化芸術に携わる市民の裾野の拡大、文化芸術活動の円滑な継承、発表や鑑賞の機会の充実、市民協働による文化芸術活動の推進が更に図られていくことを期待します。

令和2年9月17日

厚木市文化芸術振興委員会

委員長 飯塚 正道

条項	委員会からの意見等	条例改正の 必要性
(目的) 第1条	順調に運用されている。	改正不要
(基本原則) 第2条	基本原則に基づき文化芸術の振興が図られている。今後とも、すべての市民が、気軽に文化芸術活動ができる、より豊かな土壌が育つことを望む。	改正不要
(市の責務) 第3条	施策の推進、県や他の地方公共団体との連携ともに順調に推進されている。	改正不要
(市民による文化芸術の 継承及び創造) 第4条	概ね順調に運用されている。文化芸術の継承に向け、新たな担い手を増やすための施策や、より多くの市民が主体的に文化芸術活動に関わっていくことができる手法の充実を期待する。	改正不要
(文化芸術団体の役割) 第5条	団体の活動は充実している。更なる団体の活動を維持、発展させるためにも、若年層の文化芸術活動への参加の促進を図りたい。 団体が時代に合わせた新しい活動ができるような施策を望む。	改正不要
(基本計画) 第6条	順調に運用されている。今後も基本理念に沿った施策の展開を図りたい。	改正不要
(文化芸術の継承等) 第7条	概ね順調である。引き続き伝統芸能等を継承する人材の育成に努めていくとともに、保存、活用が図られる継続的な施策の展開を期待する。	改正不要
(市の自然等をいかした 文化芸術の創造) 第8条	概ね順調である。引き続き厚木市の最も重要な文化資源の一つである豊かな自然をいかした文化芸術の創出に努められたい。	改正不要
(創造的活動を行う者等 の育成の支援) 第9条	概ね順調であるが、引き続き継続的な育成支援の推進に努めていくとともに支援事業の周知の充実を図られたい。	改正不要

条項	委員会からの意見等	条例改正の 必要性
(市民の鑑賞等の 機会の充実) 第 10 条	身近な場所で文化芸術に親しむことができる事業の実施や、文化芸術活動の拠点であるあつぎ郷土資料館が新築移転し、あつぎ郷土博物館として開館するなど、施設の活用状況は一定の水準を満たしているが、今後もさらなる拡充を図るべく施策を講じられたい。	改正不要
(文化芸術に関する情報の 収集及び発信) 第 11 条	概ね順調である。文化芸術を通じた交流の更なる推進のためにも、効果的な情報の収集と発信は重要である。今後は多様化する世代のニーズに沿った情報提供にも努められたい。	改正不要
(実施計画事業) 全条 【第 7 条～第 11 条】	概ね順調である。文化芸術活動への参加者の高齢化と固定化を解消していくためにも、事業の周知を更に図り、広く市民の参加を促す方策を講じ、文化芸術の更なる推進を図られたい。	改正不要
(文化芸術振興委員会) 第 12 条	順調に運用されている。	改正不要
(評価等) 第 13 条	順調に運用されている。検証からの意見が今後の事業施策の改善につながるよう努力されたい。	改正不要

厚木市文化芸術振興条例

(目的)

第1条 この条例は、厚木市自治基本条例(平成22年厚木市条例第25号)の趣旨にのっとり、文化芸術の振興に関する基本的な事項を定め、並びに市、市民及び文化芸術団体の役割等を明らかにすることにより、人、まち及び自然が響きあうあつぎの文化芸術を創造し、もって心豊かな市民生活と活力に満ちた地域社会の実現に寄与することを目的とする。

(基本原則)

第2条 文化芸術の振興に当たっては、市民が文化芸術を鑑賞し、これに参加し、又はこれを創造することができるような環境の整備が図られなければならない。

2 文化芸術の振興に当たっては、文化芸術に関する活動(以下「文化芸術活動」という。)を行う市民の自主性及び創造性が十分に尊重されなければならない。

3 文化芸術の振興に当たっては、文化芸術が大切に育まれ継承されるとともに、多様で特色ある文化芸術が発展するよう配慮されなければならない。

4 文化芸術の振興に当たっては、市、市民及び文化芸術活動を行う団体(以下「文化芸術団体」という。)が連携し、及び協働して取り組まなければならない。

(市の責務)

第3条 市は、文化芸術の振興に関する施策を総合的かつ計画的に推進するものとする。

2 市は、文化芸術の振興に関する施策を効果的に推進するため、国及び神奈川県その他の地方公共団体との連携に努めるものとする。

(市民による文化芸術の継承及び創造)

第4条 市民は、第2条に規定する基本原則の理解の下、文化芸術活動への参加を通じて、文化芸術の継承及び創造の担い手となることができる。

(文化芸術団体の役割)

第5条 文化芸術団体は、自主的かつ創造的に文化芸術活動を推進するとともに、文化芸術活動に参加する市民との協働により、当該活動の充実に資するよう努めるものとする。

(基本計画)

第6条 市長は、文化芸術の振興に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、文化芸術の振興に関する基本的な計画（以下「基本計画」という。）を策定しなければならない。

2 市長は、基本計画を策定しようとするときは、厚木市文化芸術振興委員会の意見を聴かなければならない。

(文化芸術の継承等)

第7条 市は、文化芸術の継承及び発展を図るため、伝統芸能等の後継者の育成の支援その他の文化芸術が適切に保存され、又は活用されるための必要な施策を講ずるものとする。

(市の自然等をいかした文化芸術の創造)

第8条 市は、特色ある文化芸術の創造を図るため、本市の豊かな自然、歴史、風土等の文化資源をいかした取組その他の必要な施策を講ずるものとする。

(創造的活動を行う者等の育成)

第9条 市は、文化芸術に関する創造的活動を行う者、それを支える活動を行う者等の育成を図るための環境整備、創造的活動の成果を発表する機会の提供その他の必要な施策を講ずるものとする。

(市民の鑑賞等の機会の充実)

第10条 市は、市民が文化芸術を鑑賞し、又は市民自らが文化芸術活動を行うことができる機会の充実を図るため、文化芸術に関する公演、展示等の拠点の整備その他の必要な施策を講ずるものとする。

(文化芸術に関する情報の収集及び発信)

第11条 市は、文化芸術に関する情報を収集し、市民及び文化芸術団体と協働してその情報

を市内外に発信することにより、文化芸術を通じた交流が促進されるよう努めるものとする。

(文化芸術振興委員会)

第12条 市長は、この条例の運用状況の点検等を行うため、市民等で構成する厚木市文化芸術振興委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

- 2 市長は、毎年度、この条例の運用状況について、委員会に報告しなければならない。
- 3 委員会は、この条例の運用状況について、市長に意見を述べることができる。
- 4 委員会の組織及び運営について必要な事項は、規則で定める。

(評価等)

第13条 市長は、委員会の意見を踏まえ、4年を超えない期間ごとに、この条例の運用状況の評価し、その結果に基づき必要に応じた措置を講ずるものとする。

(委任)

第14条 この条例に定めるもののほか、この条例の施行について必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この条例は、公布の日から施行する。ただし、第12条並びに附則第3項及び第5項の規定は、平成25年4月1日から施行する。

(経過措置)

- 2 この条例の施行の際、現に策定されている厚木市文化芸術振興プランは、第6条の規定により策定された基本計画とみなす。

(厚木市非常勤特別職職員の報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正)

- 3 厚木市非常勤特別職職員の報酬及び費用弁償に関する条例(昭和43年厚木市条例第16号)の一部を次のように改正する。

第1条中第62号を第63号とし、第61号の次に次の1号を加える。

(62) 文化芸術振興委員会の委員

第2条第1項中「第61号」を「第62号」に改め、同条第2項中「前条第62号」を「前条第63号」に改める。

第3条中「第1条第62号」を「第1条第63号」に改める。

第5条第1項中「第62号」を「第63号」に改める。

第6条第1項第1号中「第61号」を「第62号」に改める。

別表に次のように加える。

62	文化芸術振興委員会の委員	委員長	日額	8,800円
		委員	日額	7,800円

(厚木市芸術文化振興基金条例の一部改正)

4 厚木市芸術文化振興基金条例（平成2年厚木市条例第1号）の一部を次のように改正する。

題名を次のように改める。

厚木市文化芸術振興基金条例

第1条中「芸術文化の」を「文化芸術の」に、「厚木市芸術文化振興基金」を「厚木市文化芸術振興基金」に改める。

第4条第1項中「芸術文化」を「文化芸術」に改める。

(調整規定)

5 この条例及び厚木市セーフコミュニティ推進条例（平成24年厚木市条例第18号）、厚木市子ども育成条例（平成24年厚木市条例第 号）又は厚木市観光振興条例（平成24年厚木市条例第 号）に同一の条例の規定についての改正規定がある場合において、当該改正規定が同一の日に施行されるときは、当該条例の規定は、厚木市セーフコミュニティ推進条例によってまず改正され、次いでこの条例によって改正されるものとする。